

平成27年7月13日

研修報告書

松戸市議会議員
大塚 健児

研修：地方創生元年～市民と共にある議会に向けて～

主催：ローカル・マニフェスト埼玉県勉強会

日時：平成27年7月13日（月） 13時～17時

場所：所沢市議会

次第：1. 基調講演 北川正恭「地方議会から日本を変える ～2015統一地方選挙を終えて～」

2. 県内事例研究「所沢市議会」「埼玉政経セミナー越谷市議会」「戸田市議会」

3. ワークショップ

【研修報告】

1. 基調講演 北川正恭「地方議会から日本を変える ～2015統一地方選挙を終えて～」

●1995年 地方分権推進法制定

官官接待の上手な役人が部長級になった。知事自身ももっともっと接待をやらなければダメダメと官僚に言われた。しかし、この法律を機に、裏金づくり等は原則全部駄目になった。

●2000年 地方分権一括法制定

これにより、長年日本の統治形態の骨格をなしていた中央集権体制を地方分権体制に、体制から作り変える革命的な法律制定。

つまり、競争をやらなさいといけない。国の言いなりから自立しよう。団体自治の確立。



（ところで、話は逸れますが・・・）

やっていない議会ほど「うちの議会はやっている」と言う。

議会は何もやっていないから、住民は馬鹿にしている。

カラ出張→官官接待→補助金をもらう 議会が本気で立ち上がらなければダメですね。

内部から内発的に改革をしていかなければ・・・。7割の市民は議会はいらないと言っている。

口利き、斡旋など市民の声を聞かなければならない。根本から見直しをする。

市民をわからせられない自分たちが間違っている。

●2015年 地方創生元年

形式的に分権改革。地域が消滅する。ここにきて、自分たちで生んで創ってに変わってきた。

自分たちが政策を決める。どういう理論でやるのか、それは議会が決める。自治財政権。

『そうだよね。俺たちから変えようね!!!』と言ってまず手を付けていったのが、
議会歳費・議員定数・政務活動の3つ

これは改革になっていない。

本当に歳費を減らすことが悪いのか。政務活動費をつかうことが善にならなければならない。

議会会則を変えないと・・・。しゃべったらいけないという議会が圧倒的に多い。

本当の自立 → 議会規則を全部見直すこと

ホワイトボードやポストイットをつかう。意見の相対化。

本音で語り合う。執行部に対するものしか質問しない。

執行部を動かすのは討論。

自分たちが時代を転換する。それができなければ、不要。

議員の存在感はあるが、議会での存在感は？

本気で執行部以上の説明をしたことがあるか？

議会こそが決定権者。

今の地方創生は失敗する。

例) 長野県小布施町 オープンガーデン

かつてふるさと創生で1億円地方に補助金をもらったとき、ソフト面でハコモノをつくるのではなく、職員をイギリスに派遣するなどのハード面につかった。結果、オープンガー

デンを学び、みごと『おぶせオープンガーデン』としての町おこしに成功している。

今回の地方創生で試されるのは、執行部と議会の在り方を問われる。

つまり、今までは作文で補助金をもらっていた。しかし、地方は見抜く力をつけること。
会派や委員会ごとにテーマを決める。

政策面とマネジメント面 多様な主体に切り替わること。

管理やって経営なし・・・とならないように。

票とお金で引き換える。それで本当に地域が救われるのか。

やっとネット選挙をつかいはじめた。

ネット選挙は徹底的に勉強。もっと政策的なものが上にある。

ネット選挙は政策が通用する。

選挙は『お願い』から『約束』に変えなければならない。

反対の人は相手に言ってください。市民こそが主役である。

市民にも責任がある。

政策中心の選挙にしていく。それがメインでなければ、本当に信頼されない。

18歳 低投票率を肥大化させるのでは？という問題。

偏差値教育→社会不適合

人としてどう生きるかという社会へ。

学校の教育委員会。モンスター市民。若い先生がノイローゼ。

地域として議会としてどうするのか？

本気でPTAが動いたとき、平均年齢は30才下がる。

マニフェスト 民主主義では主流。

予算の分配は政策の順位。

マニフェスト選挙型にすること。

2. 県内事例研究「所沢市議会」「埼玉政経セミナー越谷市議会」「戸田市議会」

①所沢市議会

『議会定数改正条例可決への道』と題して説明をする。



作業部会（6人による計3回）→議会運営委員会での協議→議員定数あり方に関する審議会
条例可決→議会運営委員会での協議→作業部会・正副部長打合せ→議会運営委員会→審
議会の開催（3回）→審議会による議員アンケート・正副委員長ヒアリング→議会運営委
員会での協議→審議会会長から答申書の提出→議会運営委員会での協議→意見提案手続の
実施→公聴
会の開催（公述人7人）→議会運営委員会での協議→記名投票により賛成多数で可決

これだけ見てもすごい段取りを経ています……。つまり、絶対に議員定数削減をやる
んだという決意がない限り、議員定数削減はできませんね。

②埼玉政経セミナー（越谷市議会）

『自分たちの街は自分たちで作る！』と題して説明する。

【目的】

- 1 健全な二大政党政治の確立
- 2 二元代表制の機能化
- 3 主権者としての市民の責任と役割を高める

【活動内容】

- 1 政治的、経済的、社会的なテーマで講演会、研究会の開催
- 2 自治体におけるまちづくりの基本政策の資料作成
- 3 ローカルマニフェスト運動の視点や素材の提供
- 4 新たなリーダーの育成とネットワークの確立

以上から『統一ローカルマニフェスト2011』をつくる。

特別講座・マニフェスト検証大会開催

マニフェストづくりも市民参加型で

『みんなの越谷マニフェスト2015』をつくる

ともに支え合う仲間として統一地方選挙に、統一街宣を行う。

その後も、当落関係なく、『キックオフミーティング』として再スタートを切る。

【課題】

- 1 議会内多数派形成の壁
- 2 後援会・支援者との関係
- 3 工程表が未完成 戦術の未熟

③戸田市議会

『また来たいと思わせる図書館に向けての提言書』として説明

図書館は今、従来の静かに本を読んだり、勉強したりするための施設だけでなく、人の集まる場所として進化している。

そこで、文教・建設常任委員会として図書館改革に取り組んだ。

『はなぼん』（著者小布施町立図書館「まちとしょテラソ」前館長花井裕一郎氏）という本から

短期・中期・長期にわけて見直しをする。

【短期】

- ・話題のコーナー充実
- ・館内・館外ディスプレイの充実
- ・ものがたりレシピを給食に活用（絵本に登場する食べ物を取り入れる）
- ・空き部屋の有効活用
- ・BGM館内放送
- ・家庭の不要本の活用
- ・飲み物の持ち込み可能。飲食コーナーのテーブルクロスや絵などの装飾
- ・図書館職員、司書と市民との交流
- ・様々なイベント開催

【中期】

- ・図書館ビジョン計画の策定（先進市の事例を基に、計画をする）
- ・1階玄関ホールの有効活用
- ・人工池の有効活用 敷地全体のリニューアル
- ・ブックスタート事業の拡大（赤ちゃんと保護者に絵本を介して親子で楽しく語り合う）
- ・返却ボックスと館内カートのリニューアル（漫画の一定量導入、出前図書館）

- ・ 図書館サポーター（図書館祭り開催、国会図書館データの閲覧、図書館ホームページ）
- ・ 職員の視察研修費の充実

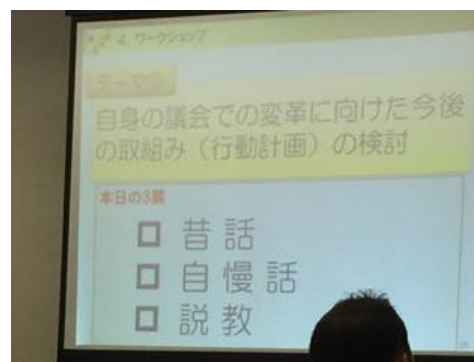
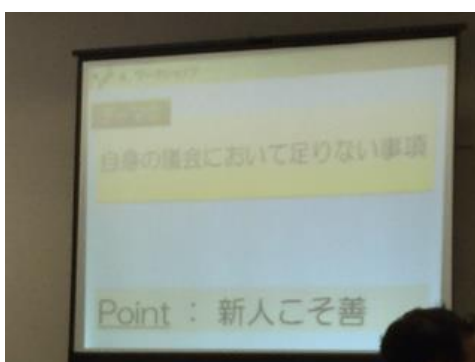
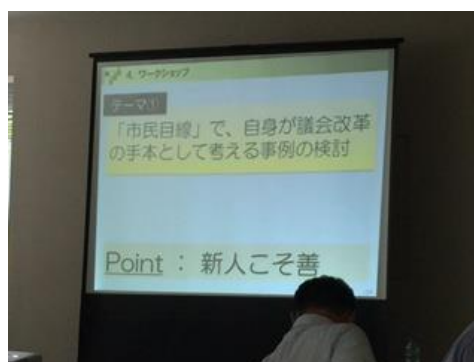
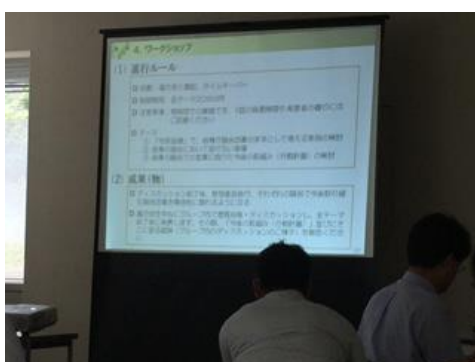
【長期】

東京オリンピック・パラリンピックが開催される2020年までに

- ・ 施設リニューアル計画（館内レイアウト）
- ・ 施設リニューアル計画（こども図書館）
- ・ 施設リニューアル計画（戸田資料室）

3. ワークショップ

「市民と共にある議会に向けて議会の現状と課題を考える」



3つのテーマで話し合いました。

① 「市民目線」で自身が議会改革の手本として考える事例の検討

【私の考え】やはり流山市。SNSを駆使した開かれた議会を目指しています。何のための議会なのか。それは一人でも多くの市民の知りたいことに応えること。市民目線で工夫をしている点が大変手本になります。特に、各自治体様々な特色がある中で、市民へのアンケート調査を行い、マーケティングの視点から独自の議会改革をしていることが素晴らしいです。

② 自身の議会において足りない事項

【私の考え】市民が何をのぞんでいるのかわからない。議員主導で議会運営をしているという点が足りない点だと思います。特にこれからICTの社会が進む中で、議案賛否や資料などの公開は必須で、どうしたら市民にわかりやすく伝わるかという議論が必要です。

③ 自身の議会での変革に向けた今後の取り組み（行動計画）の検討

【私の考え】まずはアンケート調査。そして、松戸市民が何をのぞんでいるのかははっきりとしてから、議論を展開していくこと。そして、議員本来の役目でもある、議員立法に取り組み、条例制定をどんどんしていくことに取り組みます。



グループごとに発表した模様です

【まとめ】北川正恭氏

孫正義は『やりきる』という。『あーなればいいな』は×
議会として何をやるのか。
具体的に字系列にすること。

議会事務局の強化。執行部のスパイである。ミッションを持っている職員を育てること。
追認執行部が駄目。市民にも責任をもってもらうのは当然。
今までの執行部は上から目線。『してあげる』これをどう変えていくか。

【感想】

はじめて議会改革の勉強会に参加をしました。初めて聞くことばかりでただただ驚きました。私はまだまだ勉強不足です。もっともっと他市の例を勉強し、議会改革の本質についてしっかりと理解を深めていきたいと考えました。
今後も当然この問題について、考査していきます。

以 上